

# 配光曲線

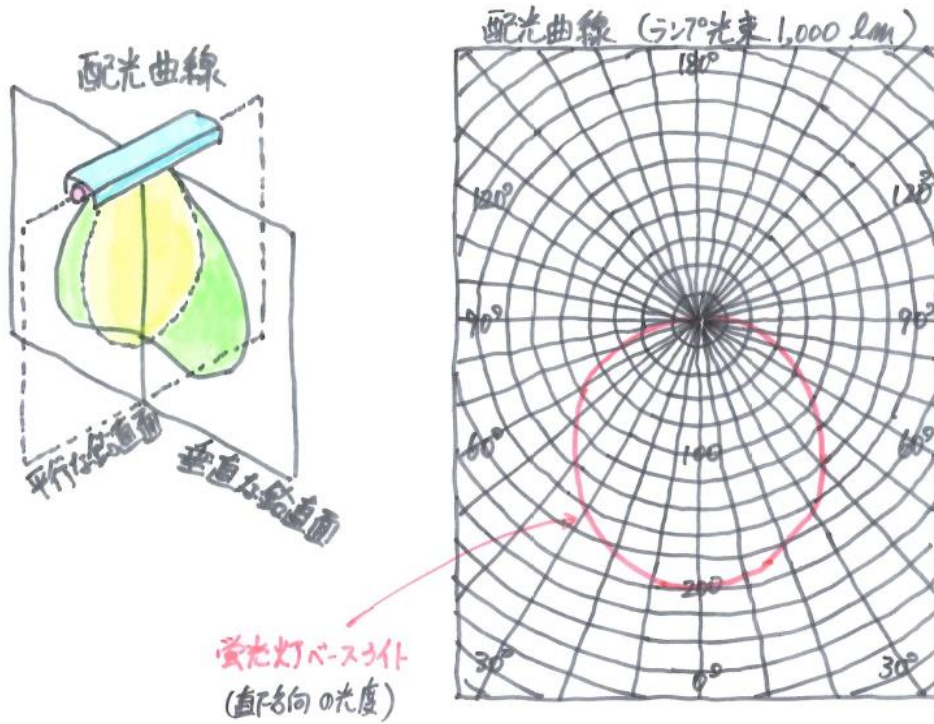


図 配光曲線による直下方向の光度

## 出題問題

平成28年度 問題7

昼光・照明に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- 1 輝度は、光源面だけで
- 2 昼光率は、室内各部の
- 3 配光曲線は、光源の各
- 4 光幕反射を減らすため

「過去問」については、(公財)建築技術教育普及センターとの過去問の使用許諾条件により、「会員講座」のみでの公開としている。  
ここでは、参考として過去問が見れないようにしている(会員講座では全問題を公開)。

解答 (正解肢) 3

- 1  輝度は、光源面、反射面、透過面から特定方向に射出する単位投影面積と単位立体角当たりの光束のことである。
- 2  昼光率は、明るさの指標であり、下記計算式で定義される。この受照面照度は、室内各部の反射率の影響を受ける。  
昼光率=(受照面照度/全天空照度)×100
- 3  配光曲線(用語解説:7.照明①配光曲線参照)は、光源の各方向に対する輝度の分布ではなく、光度の分布(これを配光という)を示すものである。
- 4  光幕反射(光の反射により見えにくくなる反射グレアのこと)を減らすためには、光が視線方向に正反射する位置に光源を配置しないことが重要である。